



無火災を願い消防団出初式

1月7日、新春恒例の「最上町消防団出初式」が行われました。富澤団長を先頭に消防団幹部、団員など270名が、高橋町長をはじめ来賓や町民の皆さんが見守る中、最上駅から役場前まで威風堂々と分列行進を行い、決意も新たに今年一年の無火災を願いました。その後、中央公民館で行われた式典では、はしごのりの妙技が披露され、出初式に花を添えました。本町では、昨年4件の火災が発生しています。今年は無火災が続くよう、各家庭からも防火の意識を高めていきましょう。

新春賀詞交換会、盛大に開催

1月10日、中央公民館大ホールにて新春賀詞交換会が開催されました。はじめに、基調講演として内閣官房まち・ひと・しごと創生本部 地方創生総括官 唐澤 剛氏を講師にお迎えし、講演をいただきました。その中で唐澤氏は、地域包括ケア、地域活性化、経済活性化、生活文化向上などを総合的に考えていくこと、そして、携わる人それぞれが「良い産業」「良い職場」をつくる発想と行動を大切にすることが重要であると話されました。続いて行われた賀詞交換会では、参加者が名刺交換をしながら、新しい年への抱負を語り合いました。



祝100歳！！

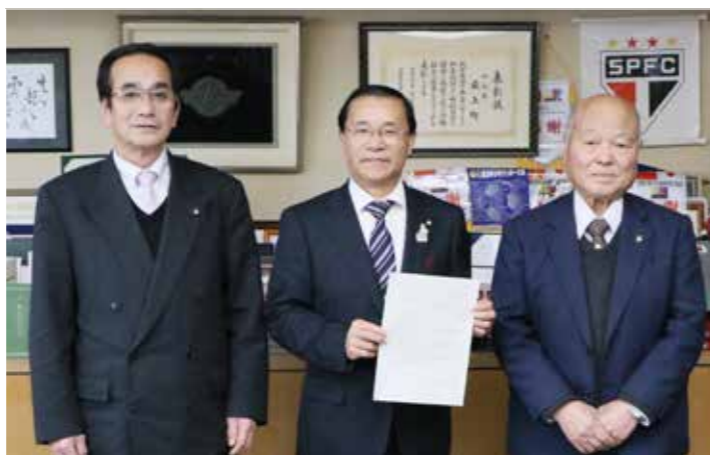
佐藤 勝美さんおめでとうございます

1月10日、佐藤勝美さん（向町三）が数えて百歳を迎えられ、ご自宅に家族、親戚が集まる中、高橋町長よりお祝いの品が手渡されました。佐藤さんは、週3回のデイサービスを活用するなど、外出して体を動かす機会も多く、たいへん元気な様子でした。高橋町長からは「100歳おめでとうございます。佐藤さんの元気な姿を見て、家族みんなが元気づけられているのだと思います。これからもずっと元気な姿を見せ続けてください」と、お祝いの言葉が送られました。



交通事故のない社会を目指して

1月9日、最上地区交通安全協会 早坂会長並びに最上支部 佐澤支部長が町長室を訪れ、今後も連携した交通安全広報活動の協力を依頼しました。交通安全協会は、交通事故防止のために、企業・世帯への訪問や街頭啓発など幅広く活動しています。高橋町長からは「日ごろから町の安心安全のため活動いただき、ありがとうございます。今後も交通事故防止のため、連携した取り組みをよろしく願います」と互いの協力を確認する言葉がありました。
■交通安全防止活動のために、交通安全協会への加入をお願いします。



株式会社大場組より寄付をいただきました



12月22日、株式会社大場組の大場利秋代表取締役より、大場育英基金の原資として200万円の寄付をいただきました。同社は平成17年から毎年寄付を行なっています。大場育英基金は、町内の子どもたちの教育振興のために設立され、これまでに大学や専門学校などの修学資金として利用されています。大場氏は「一人でも多くの若者から地元である最上町に残ってもらいたい」と話していました。高橋町長は、「ありがとうございます。いただいた寄付金は人材育成に使わせていただきます。また、今後も町の魅力を発信して参ります」とお礼の言葉を述べました。

住宅補助金のお知らせ



平成29年度最上町木造住宅耐震診断補助事業、最上町木造住宅耐震改修補助事業、最上町克雪化住宅支援事業の募集は終了しました。

平成29年度エコ住宅補助金、リフォーム補助金等についての申請をご希望の方は、3月9日（金）までに工事が完了し、実績報告書を提出できる方のみが手続き可能です。予算に限りがありますので早めの申請をお願いします。なお、予算額に達し次第、今年度の申請受付は終了となりますのでご了承ください。詳しくは下記までお問い合わせください。

●詳しくは建設課都市環境整備係まで
☎43-2015（直通）

松枯れにご注意ください



近年、最上町内において松枯れの被害が多数発生しており、町指定文化財「満沢のアカマツ」についても、樹木医による現地調査の結果、松枯れであることが確認されました。

松枯れとは、病原となるマツノザイセンチュウという体長1mmに満たない線虫がマツの樹体内で繁殖を繰り返し、通水障害が発生することにより枯死へ至るといふ伝染病で、一度感染してしまうと回復させる手段がありません。一般的に8月以降に葉が緑色から赤褐色へと短期間で変化し枯れ始めるのが特徴で、アカマツやクロマツであれば山林に限らず庭先や公園等の松にも例外なく感染します。

○防止方法

線虫を運んでくるマツノマダラカミキリの行動が活

発化する直前（6月上旬頃）までに専用薬剤を散布しておき、カミキリによる食害を防ぐことで線虫の侵入を絶つ方法が有効です。特に保存したいマツに対しては、線虫に効果のある薬剤を早期から直接樹幹に注入しておくことで、樹体に侵入した線虫を殺虫する方法もあり、両者を併用すればより高い防除効果が期待できます。（町内業者で対応可能）

○感染した場合の処理

被害木を放置すれば、6月中旬頃には新たなカミキリが成虫として羽化脱出し伝染が拡大するため、それまでに伐採し、さらに破碎（または焼却）処理を行う必要があります。

今後、町内どの地域においても松枯れが発生する危険性がありますので、民有地でマツを所有される方は、可能な限り積極的な対応をお願いします。

マツが衰弱していたり、保存したいマツがある場合は、農林課（☎43-2016）までご相談ください。